

▼通巻377号 全要研ニュース 2017年2月1日発行(毎月1回1日発行)

特集

さまざまな字幕

視覚障害者のための「音声ガイド」から 日本語字幕を考える

ユニバーサルシアター「シネマ・チュブキ・タバタ」の取り組みから



デジタルシネマの普及で新作の日本映画にも字幕が付くようになりました。しかし、上映館や上映日数は限られるのが現状です。昨秋に東京・北区東端にオープンした「シネマ・チュブキ・タバタ」は、上映する映画すべてに日本語字幕やイヤホン音声ガイドが付くユニバーサルシアターです。シネマ代表で、バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツの代表も務める平塚千穂子さんにお話をうかがいました。

上映作品すべてに字幕

JR 山手線の田端駅の北側に位置する田端駅下仲通り商工会。その中ほどに映画館シネマ・チュブキ・タバタがあります。車いすのまま入れるスペースや、親子観賞室も含め座席は約20です。

視覚障害者の映画鑑賞をサポートしてきた経験から、平塚さんが「音声ガイド」常設の映画館を作りたいと動き始めたのが2016年の春。せっかくなら開かれた映画館にしようというユニバーサルシアターにすることを決め、同年9月に開館しました。(経緯の詳細は同館のサイトに詳しいです。)

取材にうかがった日曜日は予約していたお客さんでどの回もすぐに満席となりました。視覚や聴覚に障害を持つだけで

なく、赤ちゃんと一緒にのお母さんや高齢者など、さまざまな人が1つの空間で映画を楽しんでいました。



耳マークに筆談ボードも完備

小規模作品に字幕がつかない理由

同館で上映するほとんどの作品の音声ガイドや日本語字幕を、平塚さんとスタッフで自主制作しています。シネコンで上映されるような作品は、文化庁の助成を得て「字幕版」の制作・配給というルートが確立されつつあります。しかし、予算の限られた小規模な作品の場合は、そもそも字幕版が制作されません。

▼通巻377号 全要研ニュース 2017年2月1日発行(毎月1回1日発行)

特集 さまざまな字幕

le Bridge le Bridge le Bridge le Bridge

「小粒だけれど良いドキュメンタリーで、話題になっていても字幕や音声ガイドがついていないことが多いです。DVD化されないケースもあるので上映でしか見る機会がありません」と平塚さん。

映画が好きで、見るたびに心の居場所を得てきた平塚さんにとって、できるだけ多くの人に多くの作品の魅力を伝えたいという気持ちが、ユニバーサルシアター運営の原点になっています。

同一性保持権への配慮と

モニターチェックを

ただし、ドキュメンタリー作品に字幕付きが少ないのは、著作権の問題だけではなく平塚さんは指摘します。後から字幕を付けようすると、監督やプロデューサーのチェック、撮影に協力してくれた人の確認やどこまで名前を出すのか、といったところまで検討が必要で、結局、上映を断念せざるを得ないこともあるそうです。

せりふ以外の音声による説明を加えてシーンを解説する音声ガイドの場合、その台本が監督の演出意図と合っているかどうかポイントになります。自分の著作物の内容または題号を自分の意に反して勝手に変更されない「同一性保持権」にかかわるからです。シネマ・チュブキ・タバタの運営母体であるシティ・ライツは、音声ガイドのあり方について当事者のモニターの意見を参考に研究してきました。

「見る人によって解釈が分かれる場面や登場人物が繊細な演技をしているときは、複数の音声ガイド制作者の目を通して台本を作成します。解釈が違うと言われるのを恐れて「立った」「座った」「歩いた」というような無難な説明にすることもできますが、それでは見えない人が映画を楽しめないのではと思うのです。」

同一性保持への配慮は、字幕制作の上でも当てはまりそうです。せりふのほかには作

品に納められているすべての音声情報を文字化することはできない以上、シーンの中で何を文字にするのか、情報の取捨選択が迫られるのは音声ガイド制作における視覚情報の選択と同じといえるでしょう。

平塚さんの印象では、そもそも字幕の提示位置や見え方が、作品や監督ごとに違ってくるのが目立つといいます。登場人物ごとに色分けがされている作品、音の描写がとても細かく書かれている作品、発言の重なりで字幕が多すぎると感じるものもあり、自主的に制作する場合の基準に迷うといいます。「日本語字幕は、せりふをおこせば作りやすい」という印象を与えやすいと思います」と危惧する平塚さん。お話をうかがい、当事者のモニターチェック、そして映画製作に携わる人への啓発や調整も含めたバランス感覚が、今後の字幕制作に求められると感じました。



シネマ・チュブキ・タバタ代表の平塚さん。上映作品の選定から接客、映写室に入っている機器操作まですべてをこなします。

(取材・まとめ: 長尾 康子)